

生涯スポーツとしてのサッカー Soccer as a Lifelong Sport

1K06A0517

指導教員 主査 岡浩一郎先生

大塚 秀仁

副査 中村好男先生

【研究の背景と目的】

我が国では高齢社会をむかえ、高齢者の健康問題に加え、それに伴う医療費の増大が日本の財政を圧迫している。行政はこの問題に対して、スポーツ振興基本計画にもあるように、スポーツを利用した解決方法を提案している。いつでも、どこでも、誰でもスポーツに親しめるようにという「生涯スポーツ」の考えが広がっている。しかし、「いつでも、どこでも、誰でも」という条件を全て満たすようなスポーツは少ない。そんな中、Ｊリーグは日本で初のプロリーグを創成する際に、その活動理念として「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という目標を掲げた。日本サッカー協会に選手として登録しているシニア世代や女子の 2000 年から 2007 年の登録数の変化は、シニアでは 4669 人から 15185 人、女子では 19147 人から 25297 人と増加している。サッカーをすることは、Ｊリーグの発展とともに、世代・性別を超えて身近なものになっていると言える。そこで本研究では、ジェフユナイテッド市原千葉のホームタウンの千葉市を中心に活動するサッカーチームの選手を対象として、サッカーの生涯スポーツとしての価値を探り、そしてサッカーを通じたスポーツ文化の発展と人々の健康への寄与を明らかにするために、インタビュー調査を行い分析・考察した。

【インタビューと回答結果】

インタビューは、運動の継続性を考えたとき

や自分の健康を意識したときのサッカーについて、また日本サッカー協会の目指した地域に根ざしたクラブチーム作りについて、などを中心的な内容にしている。

本研究では次のことが明らかになった。サッカーを続けて行くために必要なものは「勝利」を最終目標とした「モチベーション」「方向性」「目標」「向上心」。そしてアクセスのしやすい場所にサッカーをする環境が用意されていること、サッカー用具が利用しやすい形で提供されていること。「勝つこと」「楽しむこと」に対しての仲間との意識の共有。一度辞めたサッカーを再び始める場合、仲間と新たな環境を作り出す人と新たな環境を求める人、二通りあること。サッカーをすることでは必ずしも健康になれるとは考えられていないが、「運動不足の解消」や「精神的な感覚の回復」には影響を与えていること。激しいスポーツであり、チームスポーツであるがゆえに、サッカーでは健康になれないと考える人がいること。自身の健康を考えて行うスポーツでは、個人種目を選んだ回答が多いこと。高齢者サッカーの認知度が低いこと。ジェフの地域への影響は必ずしも大きくはないが、スポーツに限らずスポーツを中心とした文化の発展に貢献していること。

【考察】

生涯スポーツとしてのサッカーの可能性を考えたときに、継続性の点で考えると勝利を中心としたモチベーションが重要であり、その意識を仲間と共有し理解しあうことが必要であるよ

うだ。また、新たにもしくは再びサッカーを始める場合には、サッカーのスポーツとしての特性を理解すると共に、新たに参加する環境の事前調査、ならびに受け入れ先となる環境の情報公開という相互やり取りが、継続するために必要になるのである。

そして、J リーグの活動理念を「健康」という視点を中心として考えると、健康教育を充実することによって、競技者の身体活動が、自身の健康意識へ影響を与えられられる。